日本基督教団 新横浜教会月報　　2023年6月11日（第192号）

鶏（けいめい）鳴

〒221-0864
横浜市神奈川区菅田町2851
（電話 045-473-7191）

聖書の言葉

「神を知らぬ者は心に言う　『神などない』と。人々は腐敗している。忌むべき行いをする。善を行う者はいない」

聖書（詩編第１４編１節）

牧師　河合裕志

「神を知らぬ者」、これは前の「口語訳聖書」では「愚かな者」と訳していた。元の言葉は「ナバル」。ナバルという名の男性がいて彼は「頑固で行状が悪かった」と書かれている（サムエル記上２５章３節）。愚かな者はそうした傾向を持つということだろう。ところで今回の「新共同訳聖書」では「神を知らぬ者」と訳した。これは神を否定し無視する者のこと。これが愚か者の本質ということになるのかも。そこから頑固さ、行状の悪さが生まれて来る。

現に神を知らぬ者、愚かな者は「神などない」と言う、と。この点私達日本人はどうなんだろう。「神などない」とする人は多いのか少ないのか。実は少ないように思われる。だって多くの人が神社に行って祈願する。そこには「神はいます」と信じているということではないだろうか。これは尊いこと。しかし中には「神などない」、存在しない、神など人間の想像の産物、とする人々も少なくないかも。

キリスト教はどうなのか。勿論神の存在を信じている。使徒パウロは、人は自然界を通して神を知ることが出来る、と言っている。「世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます」（ローマ書１章２０節）と。こういった言葉もある。「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業（わざ）を示す」（詩編１９編２節）。天に輝く太陽、月、星々を見るならこれらを造った神の存在が知られるよ、と。こうしたことから天地、自然は第２のバイブルと言われる。これらを観察すれば神の存在がわかるよ、と。

それから神の存在を知る手がかりとしては「イエス・キリストを見よ」ということが欠かせない。これが実は最も根本的なこと、ゆるがぬ証拠に。私達はイエスを人間となった神と見ている。この方がかつて地上を歩き沢山の奇蹟を行い良い教えを語った。また自分を派遣した父なる神の存在を繰返し教えた。最後全ての人間の罪を荷って十字架につく。死んで三日目に復活して現在父の右に座して世界を治めている。また聖霊として地上にいる私達と一緒に歩いてくれている・・。こんなキリストと父なる神と聖霊なる三位一体の神を信じている。それは人間の想像の産物でなく抽象的なものでもない。こんな神を日本の国の人々がわかってくれたら嬉しいのだけれど。

集会案内

日曜礼拝：午前 10 時 15 分、夕拝：午後 6 時
子どもの教会：日曜日午前９時
中高青年会　：日曜日礼拝後
聖書を学び祈る会：水曜日午前 10 時
牧師面談：水曜日午後 1 時～7 時